

文化勲賞受賞を祝して

柳 沢 米 吉

今回、名誉会員 鈴木雅次博士が文化勲章を受賞されたことは、私ども土木技術者として非常に喜びと感激を覚えるものであります。

鈴木博士の足跡に関しては、私がここで申し上げるまでもなく、皆様の良くご承知のことと存じます。しかし今回の受賞の対象となった臨海工業地帯の発案、および経済効果を主体とした土木計画学の研究は、当然受賞に価するものと考えられます。

今日の日本の工業発展は目覚ましいものがあり、世界全体から驚きの眼で見られていますが、この根源である臨海工業地帯の造成について早くから努力され、しかも理論的発想を考えられたことは、日本経済の発達に多大な功績を残されたものであります。

私は鈴木博士に永年にわたり、ご指導を戴いたものでありますが、実をいうと博士のほんの一部分しか存じていないものであります。しかし、この受賞を最も喜ぶ者の一人としてお祝いを申し上げることといたします。

博士が絵画や音楽についても、素人の域を脱しておられ、この批判の耳目も専門家に近いことは皆様のご承知のことと思います。

博士は常に「先の先」を読んでことにあたっておられます。私どものやっている仕事についても「君は綱渡りが好きだね」といって注意されるのであります。あるとき私が「では貴方ならどうされますか？」反問しますと、博士はあらゆる場合を想定して、碁の名人が布石と手順を示すように親切に教えて下さったのであります。こんなことは再三ありますが、私の最も印象に残っているのは、昭和14年、北支那の塘沽新港の位置決定のときでした。私が現地の責任者でありましたが、若いにまかせて、無鉄砲な手順で地点決定をしようと、先輩大家にお集り願ったのであります。私も相当の波乱を予想していましたが、このとき、鈴木博士のご指示によって、なんとか難関を切り抜けることができたのは全く有難かったと思うのであります。

また、博士がいかに博学であるかを知ったのは、博士のおともをして九州旅行をしたとき、つれづれのままに中国の文書に話がおよびました。私は、このときとばかり、得意になって「山海経」の説明を初め、中国最古の文書であることなど長口舌を振ったのであります。博士

はしばらく聞いておられて、やをら「君、山海経の最も興味のある所はこうだよ……」と、今度は鈴木博士のお話を承ることになりました。私は博士が中国の古文書もすっかり読んでおられるのには全く頭の下がる思いでありました。

私どもは、いつも鈴木博士のご指導を戴いておりますが、驚くべき鋭い頭脳を、やわらかな布で包んだような言動は、なかなかまねのできないことと思うのであります。

この博士にして、私の気に入らない点があります。これはゴルフに関してであります。まずプレイ中に相手をカッとさせるようなことをいうことと、勝ったときに必要以上に喜ばれることであります。私はこれによって優勝をのがしたことが再三ありますので、ぜひ止めて戴きたいと思っております。

鈴木博士について語ることは山ほどありますが、この辺でお祝いの言葉を終らせて戴きます。

最後に、今回の受賞にあたって、土木学会、大学、建設省、運輸省、国有鉄道の土木技術者が先輩、現役をとわず、一丸となって、この喜びを期待していたことは、誠に心強く、美しいものと感じました。

今後も土木技術者の中から、このような名誉ある方々が、たくさん出てくることを期待しておるものであります。

(筆者・正会員 アジア航測(株)会長、三井共同コンサルタント(株)取締役社長)

鈴木雅次博士文化勲章祝賀会風景
(1968. 11. 12, 東京会館)

